

議事録			
件名	生物多様性なら戦略 第5回改定委員会	記録者	株式会社アドプランツ コーポレーション
月日	令和5年10月25日(水)		
時間	13:00~15:00	形式	委員会
場所	アクティ奈良6階スタンダードルーム		
出席者	希少野生動植物保護専門員	前田 喜四雄(哺乳類) 元吉 司(鳥類) 井上 龍一(両生類・爬虫類) 細谷 和海(魚類) 宮武 頼夫(昆虫類) 尾上 聖子(植物)	
	生物多様性飛鳥地域保全活動推進協議会	木村 史明(橿原市昆虫館副統括)	
	奈良県 景観・自然環境課	街道 互(課長) 山原 美奈(係長) 山口 貴大(主任主事) 木嶋 海智(主任主事)	
	株式会社アドプランツコーポレーション	増永 滋生(管理技術者) 原榎 由希子(担当技術者)	
	傍聴者	なし	
議事次第			
1. 奈良県挨拶			
2. 令和5年度 生物多様性なら戦略 第1回改定委員会 出席報告			
3. 次期生物多様性なら戦略本文案について			
4. その他連絡事項			

### 1. 本会議の成立について

項目	概要
本会議の成立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門員7名中6名の出席があったため、奈良県希少野生動植物保護専門員会議運営要領第4第2項の規定により、本日の会議は成立した。</li> </ul>

### 2. 令和5年度生物多様性地域戦略策定推進支援事業（環境省）の支援内容について

項目	概要
令和5年度生物多様性地域戦略策定推進支援事業（環境省）の支援内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境省の委託業者から、奈良県の戦略策定に対してアドバイスをもらう。</li> <li>・奈良県の戦略改定委員会が生物の専門家だけで構成されているため、文化、産業、経済等の面からの改善のアドバイスとなる。</li> <li>・決定権はあくまでも本改定委員会にある。</li> <li>・本改定委員会への出席はない。</li> <li>・次回改定委員会では、今回改定委員会の内容と環境省・環境省委託業者からのアドバイスを合わせた資料となる予定。</li> </ul>

### 3. 本文案に対する意見・修正案

項目	概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・23 ページ (ササ・タケ・クズの扱いについて)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ササ・クズは施業放置林や耕作放棄地など管理されなくなったところに侵入して問題になっていることから、施業放置林・耕作放棄地問題の中に記載する。</li> <li>・タケにしてもササにしても、昆虫にとっては様々な種が依存しており、消失しては困る。ある程度管理して残し、過剰に侵入する部分は駆除していくという方向で、文言を考えてはどうか。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・26 ページ (ナラ枯れについて)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奈良県全体として、ナラ枯れ被害状況は変化している最中と考えられる。南部ではミズナラを中心に激しく枯れていっている状況があり、北部の低標高地では場所によっては二番目の波がきているとい</li> </ul>

	<p>う話も聞く。ナラ枯れ被害が本当に減少傾向なのか、地域やその年によっても被害状況が異なるため、統計や何年度時点といった情報を載せた方がよいのではないか。</p>
<p>・ 33 ページ (行動計画、担い手の育成について)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生物多様性戦略は奈良県が出す、ということであれば、奈良県の主体性がなければ周りも動かないと思う。動かしていく仕組み作りが必要である。</li> <li>・ 人材育成のやり方、支援の内容など、具体的に挙げる必要があるのではないか。</li> <li>・ 担い手育成については、教育委員会を巻き込むような環境学習テーマを入れないと、なかなか現実的にならないのではないか。</li> <li>・ 奈良県が主導権を握れる、京都府でいう、生物多様性センターのような主体となる施設・組織を設置するのが第一ではないか。</li> <li>・ 少しでも生物多様性に関心を持った人のモチベーションをどう上げていくか、ということも大事だろう。例えば、検定試験等を実施して「奈良県生き物アドバイザー」などの認証制などを考えてはどうか。</li> </ul>
<p>・ 7 ページ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「耕作放棄された農地や利用されないまま放置された里山は、ニホンジカやイノシシの生息に好ましい環境になること」の部分については、文章を再考したほうがよいのではないか。</li> <li>・ 自然の遷移と適度な好ましい地理的な緩衝のバランスが崩れているような模式図等を入れると、ビジュアル的に分かりやすいのではないか。</li> </ul>
<p>・ 10 ページ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1. (1) の下から 5 行目、文章が長いので、改行したほうがよい。</li> </ul>
<p>・ 11 ページ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文末の表現を統一する。</li> <li>・ 五條・吉野地域は奈良県で半分以上を占める地域であり、生物多様性の視点から重要</li> </ul>

	<p>な地域でもある。素案では紀伊山地や大峰山脈等が説明されていたが、本文にも反映してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山岳性気候という言葉、奈良県の地形に適用してよいか、確認してほしい。</li> <li>・先行河川や付加体説、外帯山地などの地形的特徴や、流域の特徴等を入れると、五條・吉野地域の特徴が出るのではないか。</li> </ul>
・ 13 ページ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イザベラバードの紹介文を再考すること。</li> </ul>
・ 42 ページ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イワツバメの越冬地は消滅しているため、削除する。</li> <li>・ 神末のカヤの巨木林については、役場に確認する。</li> </ul>
・ 22 ページ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 奈良公園のニホンジカと有害鳥獣としてのシカの説明のところで、資源管理という方向性・必要性を記載してほしい。</li> </ul>
・ 26 ページ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後問題になってきそうな外来種（ヌートリア、ハクビシン、キウイフルーツ等）は、種名程度は挙げておいてもいいのではないか。</li> </ul>

### 3. その他

・ 写真、イラストについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 先生方でお持ちの写真やイラストで、ご提供いただけるものがあれば県の方へ連絡いただきたい。</li> </ul>
・ 奈良県の生き物たちについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 先生方には、奈良県として魅力的な動植物の本文執筆にご協力いただきたい。</li> </ul>
・ その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ご意見、アドバイス等は思いつく都度、県へメール等でご連絡いただければありがたい。</li> </ul>
・ 今後の予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第2回：令和5年12月1日（金） アクティ奈良6階 スタンダードルーム</li> <li>・ 第3回：令和6年1月19日（金） アクティ奈良5階 アドバンスルーム</li> </ul>

	・時間：13時～15時
--	-------------